

わくわくする学び
実践事例 1

子どもたちが主体的に考え、本音で語り合う

～ 児童生徒と一緒に創る道徳の授業を目指して ～

生涯にわたって学び続ける資質・能力をはぐくむ「わくわくする学び」について、道徳の授業を紹介します。小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から教科化し、「**特別の教科 道徳(以下道徳科)**」としてスタートしました。児童生徒が、自らの人生や社会における答えが定まっていない問いを受け止め、多様な他者と議論を重ねて探究し、「納得解」を得るための資質・能力を育成すべく、「**考え、議論する道徳**」への授業改善を推進します。

道徳科の授業の中で意識してほしいことは、以下の3点です。

- ねらいとする道徳的価値の理解を基に
 - ☆児童生徒が、問題意識をもって、**自分との関わり**で捉えて考えている。
 - ☆児童生徒が、ものごとを**多面的・多角的**に考えている。
 - ☆児童生徒が、**自己の(人間としての)生き方**について考えを深めている。

授業の中で、このような児童生徒の姿が見られますか。

～授業構想～ 授業者が指導の意図を明確にし、ねらいとする道徳的価値、児童生徒の実態、教材をもとに主題を設定、基本的な学習指導過程(導入・展開・終末)を組み、指導方法を工夫します。



導入 主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階

展開 ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階

終末 ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えを整理したり、道徳的価値を実現することの良さや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

授業の中で子どもたちが「考える」必要性を感じられる「**わくわくする学び**」を。

小・中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳より

ここからは授業づくりの工夫について、P21 道徳科授業力向上プロジェクトの研究実践を参考にお伝えします。小学校の実践ですが、中学校でも参考にしてほしいポイントを示しています。

小学校2年生 ○主題:ひとりひとりをたいせつに ○内容項目:C-11 公正・公平・社会正義

【児童の実態】 児童は、友達と関わることが好きで学級の仲間と分け隔てなく話したり遊んだりできるが、自己中心的な行動も多く見られる。

【指導のねらい】 本教材の主人公を通して、自分自身を振り返り、誰にでも公平・公正に接することの大切さやその良さについて気付かせる。そして、どんな場面でも、一人一人を大切にしていこうという意欲を育てる。

教材:のぎり山のたづつ 学校の遠足で山登りがある。班決めて歩くのが苦手な「あかり」と一緒になった主人公の「こうだい」は、心配になる。遠足当日、こうだいの班は、他の班より少し遅れてしまう。こうだいは、あかりさんに「おそいよ。はやく歩いてよ。みんなから遅れてしまうよ。」とつい言ってしまう。息があがり、苦しそうにしているあかりさんをみんなが心配する。それを見たこうだいは、はっとする。こうだいは自分を振り返り、あかりさんに「ごめんね。急がせて。ぼくもゆっくり歩かね。」と声をかけ、荷物を持って登り始める。大仏の所に辿り着くと、こうだいはあかりさんからお礼を受ける。ほっとして見上げた大仏は、なんだか笑っているように見えた。

本時の主題に関わる問題意識を持たせる導入の工夫

本時で何について考えるのが導入の段階で子どもたちに伝わり、教材を通して自分のことを振り返る時間を持つことができる。

○はんのメンバーをきめています。この中から、あと一人だけと行きたいですか。

導入

山のはりをします。先生が先頭をあるきます。はんのみんなでまとまってのぼりましょう。

Aさん わたしは、あるくのがにがてです。がんばりやさんですが、きっと、おくれてしまいます。

Bさん わたしは、てきばき こうどうすることができます。山のはりも とくいです。

Cさん わたしは、お話じょうずです。みんなを たのしませることができるとおもいます。

先生

上記の質問に児童の反応は様々だった。終末に同じような問いかけをすることで、児童が自己の変容を振り返ることができる。

○すてきなと思うところはどこですか？ 黒板の写真にハートを貼りましょう。

後半

前半

展開

教材範読後、全員の意思表示を見える化する。

他と対話し、共感や比較する等、色んな感じ方があることに気付く。

すてきなところ:ピンクハート
すてきではないところ:ブルーハート

見えにくい心を可視化することで、子どもたち自身が、自分の考えは全体のどこに位置付くのか、友達の考えと同じか違うのか、どこが違うのか気付いたり、板書等を通して、自身の考えを深めたり、自己を振り返る時間を持つことができる。

主人公の前半と後半で、ハートの色から違いが見える。「なぜハートの色が変わったか」考えさせたい。また、最後の場面にもハートが貼られ、新たな気付きが見られる。

◎中心発問:どうしてこうだいさんは、あかりさんの荷物をもってゆっくり歩くことにしたのですか。

発問の工夫:ねらいに迫る発問

○あかりさんだけ荷物を持ってあげるのは不公平かな。

子どもたちの考えを深めるために、また、考えてほしいことを焦点化するためには、教師の意図的な発問は重要である。

中心発問から「みんなで仲良く登ることの良さ」に気付かせたかったが、「親切・思いやり」の方向で意見が出た。ねらいとする価値項目について考えさせるため、左記のように新たに問いかけた。児童からは、「(持つことは)当たり前」と意見があった。ここで、児童が言う「当たり前」について考えることが大切。児童の反応に柔軟に対応し、ねらいがぶれないよう意識する。

自分の体験を想起させる工夫

○あかりさんと一緒に登ってきたぼくは、大仏にどんなことを言っただろうか。

自分の体験や経験と結び付けて考えることで、今後への思いや課題について、「どうなりたい」や「どうしていい」等、考えを広げる時間を作ることができる。

主人公(ぼく)の行動を通して、(児童自身も)良いことをした後の清々しさと心の充足感を疑似的に味わうことで、誰に対しても公正・公平に接することの良さに気付かせる。

終末

振り返りシートでは、本時での学びや気付きを書かせた。その中で、「僕も町探検の班のメンバーで心配な子や大丈夫な子がいたが、相手に合わせて行動した。」と、自身の体験を振り返り書いている様子や助け合うことの大切さを書いていた。授業の中では、教師が想定していない児童の反応がいくつかあったが、**子どもの言葉を否定せず受け止める姿勢や児童の理解度に応じた発問**を事前に準備していたこともあり、児童がねらいとする道徳的価値について一生懸命に考える姿が見られた。

子どもたちが安心して自分の思いを伝え合うためには、「学級経営の充実」「児童生徒の実態把握」が大切です。普段の関わりを大切に、教師も子どもたちと一緒に考え、本音で語り合う授業を意識しましょう。